

意見公募（パブリックコメント）の実施結果について

1 意見公募案件

「四万十町過疎地域持続的発展計画の策定」に係る意見公募について

2 意見の募集期間

令和3年7月14日（水）から令和3年8月4日（水）まで

3 意見の提出者数及び意見数

2人（3件）

4 意見に対する町の考え方

下表のとおりです。なお、意見公募手続条例第11条第2項の規定により、ご意見中、個人に関する情報で特定の個人が識別し得る情報がある場合及び法人等の財産権等を害する恐れがあると判断される場合には、公表の際に当該箇所を伏せさせていただいております。

受付No.	意見	意見に対する町の考え方
1	<p>「医療の確保について」</p> <p>以前から思っていたことがあります。意見ができることに感謝します。自分自身何度か救急車で搬送されたことがあります。夜、搬送される時、断られることもあります。夜、具合が悪くなる人も多いと思います。当直の先生もいます。詳しくは分かりませんが、病院の先生が順番で回っているように見えます。せめて内科の先生が常にいないと町民は不安だと思います。もしそれが金銭面のことなら町が補助金を出して、内科の先生が常に当直をするといったようなことを検討していただけないでしょうか。病院も民間企業です。赤字を出すことはできないでしょう。そこら辺を、町と病院が話し合い、町民が安心して暮らせるよう、万が一の時も対応できるように何卒よろしく願います。</p>	<p>救急対応による貴重なご意見をいただきありがとうございます。</p> <p>いただいたご意見の中にあります「金銭面のことなら町が補助金を出して、内科の先生が常に当直をするといったことを検討できないか」という内容につきましては、金銭面の課題だけではなく、医師不足、医師の都市部への偏在など、四万十町で常時内科医を当直配置させることは、大変厳しい状況にあります。</p> <p>しかし、四万十町総合振興計画において、「救急医療体制の充実」は施策として取り組むこととしておりますので、今後、町営診療所をはじめ、関係機関と連携し、緊急時に対応できる医療体制の確保に努めてまいります。</p> <p>ご意見の内容を踏まえ、計画本文に「救急医療体制の確保」を追記させていただきました。</p> <p>計画本文（変更前） ○遠隔地からの救急患者搬送のため、主要道路の整備をはじめ、ドクターヘリの活用を図ります。</p> <p>計画本文（変更後） ○遠隔地からの救急患者搬送のため、主要道路の整備をはじめ、ドクターヘリや関係医療機関と連携し救急医療体制の確保に努めます。</p>

<p>2</p>	<p>人口減少、それに伴う過疎化は止めることのできない状況にある。特に過疎化の進んでいる地区（集落）を見ても、ただ人口が減少していると言うだけでは済まされない。そこに住む世帯をみても、高齢の一人暮らしがほとんどである。そしてこれらの世帯には、将来この地で世帯を後継することがほとんどないことである。</p> <p>私もこうした地区（集落）を見て、そこで生活をしている人たちの話を聞いてみても、生活の不便さをつくづく感じさせられる。そうした現状を見るたび何かこの集落を活性化させる方法はないか、また高齢ながらも畑を耕し野菜を作っている姿を見て、この人たちを有効に活かせる道はないだろうかといういろいろ考えてみても、実状を知れば知るほど難しく感じる。こうした中、この人たちが一番望むのはやはり、医療面と食品を中心に生活必需品の確保である。しかし、こうした地区（集落）の一戸一戸の世帯に対して十分な体制を整えることは、町としても到底無理と言わざるを得ない。</p> <p>また山村地区だけではなく、四万十町全体を見渡しても、町全体に活力が感じられないのが現状である。こうした状況は今後益々増加するのではないかと考え、強い危機感を覚える。こうした状況を打開するには、もう小手先の対策ではどうにもならないだろう。</p> <p>案1「町民1人、1案運動」 これによって目指す結果は、 ○人材育成（人づくり）の基礎となること ○新たな産業を創出することである これは町民一人ひとりからのヒントやアイデアを製品化、商品化して四万十町の新たな産業を生み出すことと、特に小・中学生の想像力の向上を図り、四万十町に住んでも夢の持てる生活ができる収入を得ることが可能であることを身をもって体験させ、創造性を持つ優秀な人材を一人でも多く四万十町に残す事。 また、こうした製品化や商品を生み出す事になれば、これにより生産加工、流通販売などの分野で働く場が出来て、若者の希望する仕事の窓口が広がることなど四万十町にとっても活性化につながるものと考え。 ただこの計画を実行していくには、町民からの情報の取り方や商品化するでのプロセス及び流通販売という多岐に渡る作業と手法を要する。これらについての裏付け理由を一つ一つ記せば大変長い文面になるので省略する。</p>	<p>人材育成部門としましては、起業・創業に向けた取り組みのサポートや講座等による知見の提供、個々が持つアイデアの磨き上げや事業化に向けた支援等を既に行っているところです。今後も小・中学生や町内高校の生徒はもちろんですが、町民の皆さまが持つアイデアを磨き上げ、実現に向けて一歩踏み出す環境の構築を推進し、広く町内外に周知していきたいと考えております。</p> <p>そして、起業・創業の部分につきましては、今後の施策の参考にさせていただきます。</p>
----------	--	--

<p>3</p>	<p>案2「過疎地区（集落）の高齢者世帯の1か所集合化」 これによる最大の目的は、これらの人達に対する医療関係と食品を中心とした生活必需品の確保の充実である。またこれにより、隔離された孤独な生活環境から脱皮できることである。高齢者がかかりやすい認知症などの予防や防止になるのではないかと考える。 この計画を進める施策として（例）小、中学校の廃校跡を利用して、健常者を対象にした賃貸住宅（アパート方式）にすること。 またここに入居する人達は、農家が多いと思われる所から大なり小なり、田畑を所有していると考えべきである。それらの土地を荒廃させずに活用を行うため、その土地に合った特産物等の栽培を目的に、各地域又は一定範囲をブロックとした、会社を設立する。 そして入居者の田畑は、その会社に現物出資の形で投資して株主とする。（後々出資者に対する配当等は株式会社に準ずる） また栽培する作物等によっては、植え付け、草取り、収穫など人手を要する作業も多いと思われるため、入居者を計画的に雇用労力として使用する。これは我が家で生活しているときは、田畑で稲や野菜を作っていた人達が殆どであることから、この人達にとっては精神的な面からしても安心感などの効果をもたらすはずである。 この案も一案同様実行するには、きめ細かな計画や手法が必要であると思われる。また計画や実行に及ぶ裏付け等の説明は一案同様字数が多くなる為、省略する。 計画及び推進上少しでも参考になれば幸いです。</p>	<p>農業部門としては、田畑を荒廃させないためには様々なアイデアが必要ですので、頂いた意見も参考にさせていただきます。現状としては、耕作放棄地対策については農業員会を通じた取組、各地域のブロック化については集落営農組織による農業経営が該当すると思われます。四万十町においてはそうした活動に対してまだまだ支援が不足している状況ですので、まずは支援を充実していきたいと考えているところです。</p> <p>山間部で集落が点在して支援が行き届きにくいという課題に対し、ご提案の高齢者世帯の1か所集合化は、生活支援を効率的に行うメリットがあると思います。一方で、既存の高齢者住宅が満室にならない現状もあり、「不便であっても住み慣れた持ち家から離れがたい」といった声も聞かれることから、ニーズを確認しながら、住宅施策の検討もしながら進める必要があると考えております。</p> <p>いただいたご意見を参考にさせていただき、各課連携をとりながら検討を進めてまいります。貴重なご意見、ありがとうございました。</p>
----------	---	---

